

学校課題の改善と教職員の「やりがい」につながる
効率的・効果的な業務の見直し

多治見市立北陵中学校

1 取組の内容

(1) 適材適所の職員配置によるチーム力の向上

令和4年度は、20・30代が11名、40代が4名、50代が5名で男女比は4：1であった。令和6年度は、20・30代が9名、40代が6名、50代が2名、60代が2名で男女比は11：9となり、年代や男女比のアンバランスさは徐々に改善されてきた。

若い職員が多い構成ではあるが、「資質向上期」の職員が様々なアイデアを出す・積極的に相談をする→「資質充実期」「資質貢献期」の職員がそのアイデアが活かされるようにサポートするといった環境を整えることができている。適宜メンターを組み替えながら教育活動に臨むようにしている。

(2) カリキュラム編成によるゆとりの時間の確保

- ・帰りの会が終わる時刻を16時とし、最終下校時刻を16時15分とした。
- ・運営委員会や職員会などの会議は、5時間授業の日に位置付けた。
- ・会議資料は、Web会議システム上で配付し、事前に目を通すことで会議時間短縮を図った。
- ・定期テスト前は下校時刻を早めると共に、「先生に質問できる日」を位置付けた。
- ・学年共通の空き時間を作り、学年会議は日課内で行うことができるようにした。

(3) 地域人材『激勉サポーター』の活用

本校では、生徒の家庭学習をサポートする保護者や地域の方によるボランティア『激勉サポーター』を募り、活躍していただいている。サポーターには、事前に活動内容や役割分担（担任との連携も含む）、守秘義務についても十分説明を行った。

このことにより生み出された時間を、担任は教材研究や生徒との交流の時間に充てることができている。

『激勉サポーター』の活動内容

- ・家庭学習の取組についてアドバイスをや励ましのコメントを記入する。
- ・よい取組（ノート等）の紹介をする。

2 取組の結果

過去4年間の「一人当たりの時間外勤務の平均」を見ると、どの月も年々時間短縮が進み、働き方改革の効果が表れていることが分かる。（月ごとに最も時間が短縮された年を色付きで示す。）

【一人当たりの時間外勤務の平均】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	44:18	37:49	46:12	28:24	5:36	40:21	37:35	33:14	31:48	27:24	32:59	29:51
R4	32:02	33:01	38:36	25:32	5:18	30:32	29:41	29:39	26:42	24:09	30:00	27:25
R5	23:26	32:07	29:10	21:40	5:27	21:02	30:46	26:40	23:14	23:21	25:55	20:22
R6	29:31	28:16	24:23	20:07	5:42	24:59	27:11	26:24	20:17	22:11	24:00	

3 成果

本校では、不登校の出現率の高さと家庭学習習慣の定着に課題があり、時間外勤務もそれらに関わる業務が目立っていた。学校課題改善のための手立てが、それぞれの年代のよさを活かすことになり、各学年の職員がチームになって動く働きやすい環境づくりとなっていた。また、『激勉サポーター』の取組は、生徒・学習指導部・担任及びサポーターが家庭学習を通してつながり、それぞれが「やりがい」を感じるよい活動となっている。

このような取組によって、学校は生徒と教師との関係が深まり、保護者からの信頼も得られ、穏やかな学校生活へと年々変化している。時間的にも精神的にもゆとりが生まれた職員は、より生徒の困り感に寄り添うことや研修へと主体的に関わろうとする姿になっている。



「激勉サポーターさん」